



2020年(令和2年)12月15日発行

特定非営利活動法人
あきたスギッチファンド

TEL 018-839-8941
FAX 018-829-5803
e-mail madoguchi@sugicchi-fund.jp
<http://www2.akita-kenmin.jp/~akita-npo-fund/>

あきたスギッチファンド 通信 No.37

新型コロナウイルスの感染拡大が止まりそうもない現実に、苦悩、苛立ち、不安を抱いている人が多いのではないのでしょうか。多くのNPOの活動も少なからず影響を受け、活動を停止する団体も散見されます。当ファンドも活動の変更、縮小を余儀なくされております。毎年実施しております助成活動の成果を発表する「事業報告会」は一同に集まっての開催することはできず、それに代えて事業報告集を作成し関係者に配布することにしました。また当会理事、役員が助成先を訪問し話し合う企画も中止せざるを得ませんでした。助成の原資となる寄付金の調達にも影響が出ており、来年度の事業への影響が懸念されます。

コロナが収束して、活発な市民活動が再開される日の到来を心待ちにしたいですね。

あきたスギッチファンドの活動(9月~12月)

- 9月13日 秋田県「寄り添う市民活動」緊急サポートファンド
審査会 於：遊学舎
- 9月28日 第18回チャリティ・ゴルフコンペ in 椿台
於：秋田椿台カントリークラブ
- 10月 5日~11月 5日 第24回本ファンド助成事業 募集
- 12月 5日 第24回本ファンド助成事業 審査会 於：遊学舎

* スギッチファンドの11月末現在の寄付金総額は、982,236円です。
多くの皆様のご支援に感謝申し上げます。



楽しくプレーする参加者たち



多くの企業・団体から協賛の品々が寄せられました。ありがとうございました。

第18回チャリティ・ゴルフコンペは、秋田椿台カントリークラブ様のご支援のもと、65名が参加して開催されました。好天に恵まれ、皆様思いっきりプレーを楽しまれたようでした。多くの企業・団体から協賛の品々が寄せられましたが、コロナ禍で表彰式は簡素に行いました。

第24回本ファンド（2020年度第2回）助成事業決定

第24回本ファンド助成事業では、10月5日～11月5日に本ファンド、秋田銀行行員有志からの資金提供による冠ファンド「秋田未来づくりファンド」と秋田魁新報社からの寄付金で組成した冠ファンド「秋田魁新報社がんと生きるファンド」、全国心臓病の子どもを守る会秋田県支部からの資金提供による冠ファンド「病児の支援活動を応援するファンド」の募集を行った。新型コロナウイルスの感染拡大の影響か、なかなか応募がなく、活動が制限される状況ではやむを得ないと半ば諦め気分だった。例年と比べては少ないが、最終的には11件の応募があった。

選考委員は、昨年度に引き続いて下表の委員に審査をお願いした。

渡邊 靖	秋田商工会議所 まちづくり推進課課長
三浦 美由紀	E n - L i n k 代表（北秋田市）
鎌田 晶子	秋田県企業活性化センター 秋田県よろず支援拠点コーディネーター
佐々木 美奈子	NPO法人いきいきFネット秋田 理事 秋田県男女共同参画センター センター長
安宅 英男	株式会社秋田魁新報社 総務局総務部部長
沼倉 充	NPO法人秋田県南パソコン支援市民ネット 副理事長
須磨 武	秋田県あきた未来創造部 地域づくり推進課 地域協働推進班 主幹（兼）班長

12月5日（土）遊学舎での公開審査会では、午前中に冠ファンドのプレゼンテーションを実施。秋田銀行の冠ファンドの審査には、秋田銀行地域価値共創部の伊藤晋宏氏に加わって頂いた。病児の支援活動を応援するファンドについては、代表が都合により審査には加わることができず、審査委員会に委任することになった。審査はスムーズに進み、11時50分に講評と審査結果を発表し冠ファンドの部を終了した。

午後は1時から2時40分まで本ファンドのプレゼンテーションを行い、その後選考委員による検討協議に入った。30万円コースは応募2団体から1団体を採択、50万円コースは応募4団体の中から2団体を採択、1団体を30万円に減額して採択とした。プレゼンテーションのない10万円コースは、書類審査の結果を基に協議し決定した。審査講評として選考委員からは、地域の課題に向き合っているかを問い直すことの必要性、具体的に事業が見えるようなプレゼンの工夫の必要性が指摘された。



募集、応募、採択状況

助成額	募集件数	応募件数	採択件数
本ファンド 上限10万円コース	1	3	1
上限30万円コース	2	2	2
上限50万円コース	2	4	2
冠ファンド 秋田未来づくりファンド 上限20万円コース	1	1	1
冠ファンド 病児の支援活動を応援する ファンド 上限20万円コース	1	1	1

採択団体

本ファンド

10万円助成

団体名 気仙沼出前交流プロジェクト実行委員会（大館市）
事業名 親子で学ぼう 防災講座

東日本大震災以来、気仙沼市との交流や大館市民の防災意識の学びを深める事業を実施してきた。今年度はコロナ禍で交流事業は実施できないので、防災教室を通して防災意識の啓発を行う。令和3年2月27日に子育て世代の親子を対象に、「親子で学ぼう 防災講座」を開催、災害時に役立つ制作体験、防災講話、気仙沼出前交流や気仙沼の様子を伝える写真展などを行う。防災対策の必要性、支え合いの大切さを再認識する機会とする。

30万円助成

団体名 proma Akita（プローマ アキタ）（秋田市）
事業名 育児は仕事の役に立つ ～「ワンオペ育児」から「チーム育児」へ～
若者によるオンライン講習会



近年女性の社会進出が進み共働き世帯が多くなっているが、社会・会社から子育て世帯を理解してもらえない、家事と育児の分担がうまくできないというケースが少なからずある。そこで、『育児は仕事の役に立つ』の著者浜屋祐子氏の講演会を開催し、育児は仕事の役に立っているという側面を知ってもらう。共働きには社会・会社の理解が必須であるから、企業にも参加を呼びかける。イベント会場、オンライン会場を設け、子育てと仕事の両立について新しい視点を得てもらう。

団体名 NPO 法人鳥海山麓グリーンネット（由利本荘市）
事業名 鳥海高原で自然を味方にSDGsを考える自然体験プログラム

長年鳥海高原で菜の花栽培、高原野菜栽培を行い、観光・資源循環・環境保全をテーマとする「菜の花まつり」を実施してきたが、昨年度で終了した。今回団体名称を変え体制を整え、新しい事業に取り組む。自然体験や自然資本活用と保全を取り入れた環境教育プログラム「SDGsと自然体験プログラム」を来年5月、8月に実施する。観光、地域と都市との交流により、地域の活性化を図る。

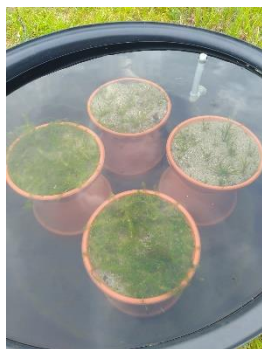
（50万円助成を申請したが、30万円に減額しての採択）

50万円助成

団体名 NPO法人黄桜の宿（由利本荘市）
事業名 「生きがいシェアハウス」実験事業

東由利地域は高齢者比率が高く、しかも一人暮らしの高齢者が多く、経済的、精神的な不安を抱えている。その対策として、空き家を賃貸し、健康な高齢者が合理的な生活環境のもと、協力しながら共同生活をする「生きがいシェアハウス」を開設する。行政や社会福祉団体、企業等とも連携して実験的に実施し、今後の可能性、問題点を探る。将来は独立採算の運営、都市部からの入居者の受け入れを目指す。

団体名 NPO法人はちろうプロジェクト（八郎潟町）
事業名 みんなで楽しむ環境再生！「八郎潟モグリウム」拡大プロジェクト



この団体は、八郎湖流域で、未来の八郎湖再生を担う人材を育成することを目的に活動している。今回は八郎潟の水草（モグ）を復活させる学習のため「八郎潟モグリウム」と称する大型水槽を設置する。秋田県立大学、秋田公立美術大学、その他1、2カ所に設置、水草を植え付け、やってくる生き物を観察できるようにする。この事業を通して、八郎湖再生への関心を高める。

冠ファンド 秋田銀行行員有志による

「秋田未来づくりファンド」

20万円助成

（少子高齢化が進む秋田県の課題解決に取り組み、明るい未来の創造を目指す活動を対象とする）

団体名 フードバンク寄り添い支援実行委員会（秋田市）
事業名 フードバンクで寄り添い支援事業

新型コロナウイルスの影響により、収入減や失業のため生活困窮に陥る人が増えている。そのような人を支援するため、市民や企業の協力を得て食料品を集め、必要な家族や学生に配布するフードバンク事業を実施する。福祉ボランティア、学生ボランティア、中間支援NPO等と協働して、広く支援が届くように努める。先行している「フードバンクあきた」とは緊密に協力体制をとって、事業を効果的に実施する。

「病児の支援活動応援ファンド」

20万円助成

（全国心臓病のこどもを守る会秋田県支部からの資金提供）

団体名 病児学習支援ボランティア人材バンク（秋田市）
事業名 病児入院児等に対する学習支援事業

病気のため入院や自宅療養している児童生徒は、公的に十分な学習指導が行われているわけではない。それを補っているのが病児学習支援ボランティアである。学習支援方法としては、病院や自宅を訪問して行うアウトリーチ型学習支援やテレビ会議システムを活用した遠隔型学習支援等がある。今回はオンライン用の機器を整備して学習支援の充実を図る。当会の活動をひろく県内外に周知することで、病弱児教育の理解、充実につなげていきたい。

助成金でこんな活動をしています！

助成事業報告会

毎年実施している「助成事業報告会」は、このご時世では一同に集まって開催することは控えたいと考え、各団体から報告を提出して頂き、それを事務局で編集して小冊子を作成しました。

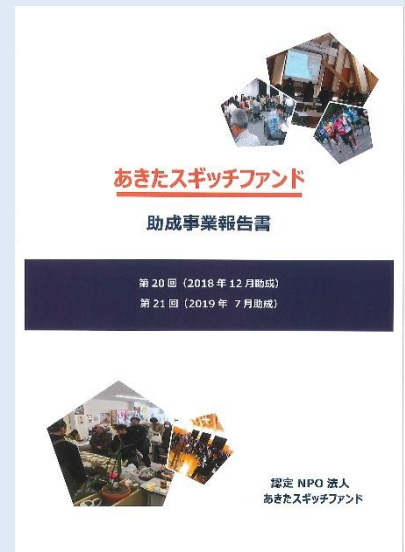
報告対象は、

第20回（平成30年度第2回助成） 9団体

第21回（令和元年度第1回助成） 12団体

全21団体の事業実施成果が収録されております。

ご希望の方は事務局まで



eナビステーションりあん

新しい事業に挑戦

能代市のNPO法人eナビステーションりあん（越後康一理事長）がeスポーツの普及に取り組んでいます。

eスポーツはエレクトロニック・スポーツの略で、電子機器を使う娯楽や競技、スポーツなどのこと。子どもから大人まで楽しめる最近人気が出ています。

「りあん」ではあきたスギッチファンドの「寄り添う市民活動」緊急サポートファンドの助成を得て45インチのテレビモニターを導入、これを活用してeスポーツを楽しむ場を整備しました。

セミナーなどを開催し、世代を超えて楽しみコミュニケーションを取れるeスポーツを、地域に広めていきたいと活動しています。



※敬称略、順不動、お名前の公開許可を頂いた方のみ掲載します。

あきたスギッチファンド寄付者一覧（2020年9月～12月）

団体・企業等	みちのくコカ・コーラボトリング株式会社、ダイドードリンコ株式会社、サントリービバレッジサービス(株)秋田支店、秋田銀行 (株)樺台ゴルフクラブ、秋田県職員消費者協同組合、スギッチ応援隊、アイネックス、NPO 法人あきたパートナーシップ
個人	米山伸子、伊藤晋宏